

## 特集1：一本松の道祖神祭り

明野町上手地区一本松では、平成4年度までおやなぎさんが作られていましたが、参加人数の減少により途絶えてしまっていました。その一本松のおやなぎさんが、14年ぶりに現公民館長、上野芳次さん等の呼びかけにより復活しました。新住民が年々増え、昔のおやなぎを知る人も少なくなりました。おやなぎ作りの復活によって伝統行事の継承と、住民同士の交流を深めるきっかけになればという思いがあったそうです。

1月8日、晴天の下朝8時半から作業は開始されました。おやなぎさんをまだ見たことのない参加者もいる中、昔のおやなぎを知る伊東豊次さんの指導のもと、手際よく作成を進めていきました。一本松は明野町の中でも特に戸数の多い集落。戸数分の枝を作る竹割りの作業では、なんと95本もの枝を作りました。県道沿いの広い空き地に運ばれて立てられたおやなぎさんは、その豪華な枝振りを風になびかせ、通りがかった人の目を楽しませていました。一本松では今年の成果をもとに、地区の人たちの声を聞きながら、来年度以降のおやなぎさん作りを検討していくとのこと。



## 一本松おやなぎさん 14年ぶりに復活



舞：遠藤建勝さん・上村和雄さん

太鼓：福島武翁さん



上神取の獅子舞

## 美しいお囃子披露



## 特集2：上神取の道祖神祭り

上神取地区では1月15日に道祖神祭りがとりおこなわれました。今年の道祖神祭りで奉納された獅子舞では、坂本重博さん、所和男さんらが、昨年埋文センターにて練習してきた篠笛の音を披露。昨年度の舞の復活に加え、上神取の獅子舞の完成に向けて、また大きな一歩となりました。

そろいの法被に身を包んだ獅子舞のメンバー達は、太鼓を鳴らしながら各家をまわり、道祖神のお札を配りました。お祝い事のある家では座敷で悪魔払いの舞、オンベを舞い、一年間の幸を祈ります。子ども達のいる家ではそれぞれの頭を噛む動作をして、病気をしないで過ごせるようおまじないをしました。

同地区では同じ日におやなぎさんも作成。地域の人たちがとり囲み見物する中、完成したおやなぎさんと道祖神の前で「マクンベ」「オンベ」の2種類の舞を舞い奉納しました。獅子舞復活の中心となって、練習や参加者募集に働きかけてきた村田博さんは、来年度に向けてさらなる曲の習得に意欲を見せていました。来年度の上神取の獅子舞は、さらなる発展が期待できそうです。

## おやなぎさんができるまで

小正月、各地域を美しく彩るおやなぎさん。どんな風に作られているのでしょうか。

### 竹割り

おやなぎさんの枝にする竹は、当日の朝早くに切り出します。竹の枝を落とし、4つほどに割ってから地区の戸数分に細くさいていきます。

### 枝の飾り付け

竹を割く人たちとは別に、枝につける飾りを作ります。飾りは色紙や半紙など地区によって様々。新聞の折り込み広告を使う地域もあります。出来上がった飾りは、糊を付けて枝に巻き付けていきます。

### 枝つけ

軸となる棒に、枝を取りつけるための輪をつけ、この輪におやなぎさんの枝を取り付けます。軸を回しながら、均等になるように枝を付けていきます。ほとんどの地区ではこの時、枝の先にさるぼこさんなど飾りを付けます。

### 立てる

すべての枝と飾りを付け終わったら、いよいよおやなぎさんを立てます。道祖神の前か、もしくは広い場所におやなぎさんを運び、紐を使ってバランスを取りながら立てていきます。お互いに声をかけ合い協力しながら、大きなおやなぎさんを立てて固定します。

### ついに完成！

今年一年の無病息災・五穀豊穡を願って立てられたおやなぎさん。各地区のおやなぎさんは一週間の間飾られた後に倒されます。その枝を切り離し輪にしたものを各戸に配り、屋根に投げあげます。

地区によって様々な特色のあるおやなぎさん。どの地区でもそれぞれ、我が地区のものこそが一番、という自負があるようです。飾りを切るところから立てる作業まで、地域の人が一丸となって作るおやなぎさんには、小正月の行事の中でも特に特別な思いが込められているのかも知れません。

輪にされたおやなぎさんの枝